

## 自立支援協議会《児童部会》 活動報告

今年度の検討課題（テーマ）			
令和7年度は、こども家庭庁が描く「障害児支援のこれから」の図を基に、～保護者が就労している家庭の“支援が必要なこども”の過ごす場を考える～をテーマに、大和市としての図を描き、具体的な取り組みを整備する。			
出席メンバー			
ぴこっと：部会長	児童発達支援センター 第1 松風園	はあとふるキッズ大和南	三ツ境支援学校
瀬谷支援学校	横浜ひなたやま支援学校	大和市教育委員会指導室	青少年相談室
こども・青少年課	すくすく子育て課	サポートセンター花音	大和市障害者 自立支援センター
相談支援センター松風園			
開催日及び検討経過			
令和7年4月9日（水）	ワーキンググループ（3名）オンライン実施 児童部会の目的や目標の共有のための説明と令和7年度の取り組み内容の作成		
令和7年5月21日（水）	ワーキンググループ（3名）オンライン実施 児童部会の目的や目標の共有のための説明と令和7年度の取り組み内容の作成		
令和7年6月11日（水）	児童部会 14名 対面実施		
中間報告			
○令和7年6月11日（水）児童部会（対面での実施） ・部会長の承認を行い、継続してぴこっとが部会長を務める。 ・こども家庭庁の「障害児支援のこれから」の図を基に、大和市バージョンを描いていく。大和市にある関係機関で、～保護者が就労している家庭の“支援の必要なこども”の過ごす場を考えるとときに、それぞれの関係機関の役割、現状と課題、今後どのようなことに取り組めるのかを発表しあった。			
令和7年度の今後の予定			
ワーキング：7月、8月、10月、11月、令和8年1月、2月、3月 部 会：9月、12月			
今年度の検討の成果（見込）			
こども家庭庁の「障害児支援のこれから」の図を基に、大和市バージョンを作っていく。保護者が就労している“支援の必要なこども”に関連した各関係機関から、「役割」「現状」「課題」「具体的な取り組み案」を整理していくことで、理想的な姿と現状を確認し、そのギャップを埋められる案を検討していく。			

## 自立支援協議会<高齢福祉分野との連携部会> 活動報告

### 今年度の検討課題（テーマ）

障がいのある方及びそのご家族の高齢化に伴い、地域生活におけるさまざまな課題が顕在化している。  
こうした状況を踏まえ、障がい福祉分野の枠を超えて、高齢福祉分野との情報共有や連携を軸に置きながら、風通しの良い、円滑な支援体制の構築を目指す。

### メンバー（敬称略）

大和市手をつなぐ育成会	大和市肢体不自由児者 父母の会	大和さくら会	鶴間地域包括支援センター
福田北地域包括支援センター	深見大和地域 包括支援センター	大和市社会福祉協議会 生活支援課	成年後見センターかけはし
コンフォート光ヶ丘	ワーカーズ想	大和市障がい福祉課	大和市障害者 自立支援センター
相談支援センター松風園	サポートセンター花音		

### 開催日及び検討経過

4月15日（火）	・年間スケジュールの確認（今年度の取り組みについて） ・地域包括支援センターとの連携（高齢分野との連携） ・昨年度自立支援協議会で挙げた高齢化に伴う課題についての確認
5月20日（火）	・地域包括支援センターとの連携（地域ケア会議に障がい分野の参加） ・介護保険制度移行へのフローチャート作成の取り組み
6月17日（火）	・地域包括支援センターとの連携（高齢分野との連携）中部地区包括との勉強会について ・介護保険制度移行へのフローチャート作成の取り組み
7月15日（火）	・地域包括支援センターとの連携（高齢分野との連携）勉強会の継続検討 ・介護保険制度移行へのフローチャート作成の取り組み

### 中間報告

○高齢福祉分野との連携：高齢福祉分野と障がい福祉分野の関係機関が、立場や分野を越えて、互いの顔が見える関係づくりを進める中で、継続的な連携と協働体制を築いていくことの重要性を確認している。

○介護保険移行へのフローチャート作成の取り組み：障害者総合支援法による障害福祉サービスから介護保険制度への移行手続きは複雑であることから、ご家族や支援者がその流れを理解できるよう、現在、移行プロセスを視覚的に整理したフローチャートの作成に取り組んでいる。

### 令和7年度の今後の予定

○高齢福祉分野との連携：障がいのある方とご家族の高齢化が進むなか、地域での暮らしを支える体制づくりがより重要となっている。こうした背景を踏まえ、関係機関との連携を図るとともに、大和市内の地域包括支援センターや介護支援専門員との顔の見える関係づくりを進め、分野を越えた支援ネットワークの構築に取り組む。

○介護保険移行へのフローチャート作成：ご家族、相談支援専門員、関係機関がそれぞれの立場で活用できるよう、情報の整備をしながら、介護保険移行へのフローチャート及びツール作成を進めていく。

### 今年度の検討の成果（見込）

○障がいのある方及びそのご家族の高齢化に伴う課題を共有し、地域包括支援センター、介護支援専門員、障がい福祉分野が制度やサービスの違いを理解し合うことで、連携の強化とさらなるサポート体制の向上を図ることができる。

○介護保険制度への円滑な移行を支援するため、フローチャートや各種ツールを整備し、障がい福祉サービス事業所やご家族、関係機関が活用できるようにする。

## 自立支援協議会《意思決定支援推進部会》 活動報告

今年度の検討課題（テーマ）	
意思決定支援の推進を目的に、意思決定支援に関する課題や具体的な取り組みについて児童期、成人期に分けて、課題整理及び具体的取り組み内容、方法を検討する	
出席メンバー	
<p>【チーム児童期】</p> <p>教育・保育・子育て支援関係機関、児童サービス（療育）提供事業所、家族会、ボランティアセンター、相談支援事業所（計画・委託）、すくすく子育て課等</p> <p>【チーム成人期】</p> <p>当事者（団体）、サービス提供事業所（入所、通所、GH、居宅介護、移動支援、相談支援事業所等）、権利擁護関連団体、障がい福祉課等、（オブザーバー：家族会）</p> <p>※アドバイザーとして、社会福祉協議会に両チームへの活動に関与、協力いただく（事務局：自立支援センター）</p>	
開催及び検討予定	
令和7年8月22日（金）	意思決定支援に関する研修会（講師：白梅学園大学教授） 広く参加者を募り、意思決定支援についての基礎的な理解を含めた上で、部会活動への協力を広く募っていく
令和7年9月	上記研修会での取り組みを基に、部会構成員を決定する
令和7年10月以降	「チーム児童期」「チーム成人期」に分かれ、具体的な検討を開始
中間報告	
部会設置準備として、意思決定支援に関する研修会の開催準備等を行った。	
令和7年度の今後の予定	
上記、開催及び検討予定の通り	
今年度の検討の成果（見込）	
<p>【チーム児童期】</p> <p>意思決定を行う力を育てるために、必要な経験や体験を検討し、保育、教育、児童福祉（療育）サービス、子育て支援等、横断的に体験の機会を設ける方法等についての検討を行う</p> <p>【チーム成人期】</p> <p>既に成人の方達に対して、ご本人の意思を尊重した生活を実現するために、必要な取り組みや課題の整理を行う。その際には、年齢や特性や生活形態を配慮した検討とするとともに、成人期の課題を児童期の検討チームとも共有し、児童期に必要な経験や体験の検討材料ともしていく</p>	